

1. そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。
2. これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録である。
3. それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。
4. ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
5. 彼はダビデの家系であり血筋でもあったので、
身重になっているいいなずけの妻マリヤも一緒に登録するためであった。
6. ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
7. 男子の初子を生んだ。
それで、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。
宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
8. さて、この土地に、羊飼いたちが野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。
9. すると、主の使いが彼らの所に来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。
10. 御使いは彼らに行った。
「恐れることはありません。
今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。
11. 今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。
この方こそ主キリストです。
12. あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶に寝ておられるみどりごを見つけます。
これがあなたがたのためのしるしです。」
13. すると、たちまち、その御使いといっしょに多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。
14. 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。
地の上に、平和が、みこころにかなう人々にあるように。」
15. 御使いたちが彼らを離れて天に帰った時、羊飼いたちは互いに話し合った。
「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせて下さったこの出来事を見て来よう。」
16. そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼い葉桶に寝ておられるみどりごとを捜し当てた。
17. それを見た時、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。
18. それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。
19. しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。
20. 羊飼いたちは、
見聞きしたことが全部御使いの話の通りだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

説教

今日は12月23日で、明日は24日、クリスマス・イヴです。そして、明後日はクリスマスということになります。みなさん、クリスマスというのは何の日か知っていますか？サンタさんが来る日ではありません。今晚サンタさんが来てくれる家もあるかも知れませんが、本来はサンタさんが来る日ではありません。サンタさんはおまけです。クリスマスというのは、イエスキリストさまがお生まれになったことを「記念する」日です。イエスさまは今から約二千年前にお生まれになりました。今年はイエスさまがお生まれになって二千七年目になるということで、西暦二千七年というのです。西暦2007年というのは、キリスト降誕以降2007年経ったということの意味しています。

今日の聖書のみことばに記録されている通り、イエスさまは、日本から見ると遠い西の国、イスラエルという国の、ベツレヘムという小さな町でお生まれになりました。もともと、イエスさまのお父さんとお母さんは、ガリラヤのナザレという村に住んでおりました。全世界の住民登録をせよ、という勅令が皇帝アウグストから出たため、ヨセフとマリヤは登録のため故郷ベツレヘムに向かい、そこにある家畜小屋でイエスさまを出産することになります。

皇帝アウグストの「アウグスト」という名は称号で、もともとの本名はオクタヴィアヌスです。彼の大伯父はかのユリウス・カイザル(ジュリアス・シーザー)で、彼が18歳の時にカイザルは暗殺されます。カイザルの遺言により養子とされて後継者となり、カイザルを暗殺した者らをひとり残らず粛正し、最後は宿敵アントニウスとの権力争いに勝利して、そうやって、ローマに於ける絶大な権力を確立します。「アウグストゥス」とは神秘的な超人性を表現する尊称で、死後神格化された「神君カエサル」の子として、それこそ神がかり的に大きな権力をふるい、皇帝ひとりがローマを事実上支配するという帝政ローマが、ここに本格的に始まったのでした。「ローマによる平和(パックス・ロマーナ)」と呼ばれる時代でしたが、それは血を血で洗う権力争い、2,300人にも及ぶ残忍な粛正、「蛮族」と呼ばれた周辺諸国への侵略、そして、どこへでも出て行って即座に臨戦できる軍用道路の整備と、ローマ史上初となる常設軍の洗練された軍事力に支えられての平和でもありました。ローマの常設軍は、ローマ市民のみで構成されます。地方遠征の際には、それに、各地方の援軍となる属州の軍も同じ数の兵力が加わります。また、属州の志願兵を全うすれば(納税の義務を免れ、代々権利を継承できる)ローマ市民権が与えられました。

マリヤが身重であるにもかかわらず、ベツレヘムに行かなければならなかった「住民登録」というのも、他にもないこの納税と徴兵のためです。ローマ市民は直接税が免税となりましたが、ユダヤのような属州の住民には年収の10%という直接税がかけられました。

また、アウグストの私生活について言えば、彼は23歳の時にかなり年上の女性と政略結婚した後すぐに離婚し、24歳で妊娠中で三歳の子を持つ19歳の人妻と結婚します。そうしながらも何人もの女性と関係を持っていました。「ユリウス姦通罪・婚外交渉罪法」を作って違反者を処罰しながらも、しかし、自分は姦淫の違反を犯しています。何だか話にならないメチャクチャな現実、これが「ローマによる平和」の実態でした。

このようなアウグストゥスの治世に、イエスさまはお生まれになります。イエスさまがお生まれになった時、天使は「あなたがたのために救い主がお生まれになりました。」と野の羊飼いたちに告げました。そして、天が開け、多くの天の軍勢が声を一つにして神さまを讃美してこう歌いました。

「いと高き所に、栄光が、神にあるように。

地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

まず、イエスさまの誕生は、神の栄光をあらわすものでした。天上に於いては既に神の栄光は力強く天国中に輝き渡っておりました。なぜなら、そこにはイエスさまがおられたからです。イエスさまがおられる所、そこは天国です。イエスさまがおられない所、そこは反対に地獄です。イエスさまは神の子どもであられると同時に、神ご自身でもあられます。その神であられるイエスさまが、私たちの住むこの世に生まれてくださいました。そ

の時、天上の神の栄光はこの地上に力強く現れます。神さまのこの上ないすばらしさがこの地上に現れたのです。そして、イエスさまの誕生は地上に「平和」をもたらします。この平和は「ローマによる平和」とは異なります。「ローマによる平和」は強力な軍事力に支えられていました。逆らう者を一気に武力で制圧して維持されます。でも、イエスさまの平和はこれとは正反対です。それは罪の赦しによる平和です。人の命を奪うのではなく、ご自分が死なれて私たちを罪と滅びから救い出す平和です。

イエスさまはアウグストのように反対者を肅正するために来られたのではありません。肅正するためではなくて、赦すためです。私たちの無礼を、私たちの罪を赦すために、わざわざこの罪深い世に来てくださったのです。

「宿屋には彼らのいる場所がなかった。」の「宿屋」とは客間のことです。つまり、商売している旅館に部屋がなかったという意味ではなく、どの民家も部屋を提供してくれることがなかったという意味です。イエスさまがせっかく私たちの所に来てくださったというのに、誰も歓迎して迎えてくれなかったのです。それで、布にくるんで、飼い葉桶に寝かせなければなりませんでした。そのような所に、わざわざイエスさまは来てくださったのです。お前の場所はどこしかないよと言われたら、喜んで飼い葉桶に生まれてくださるのです。ここに、底知れない人の罪と、それを赦す神さまの憐れみがあります。

イエスさまが生まれた時、さばかれるのではないかと怖がる羊飼いたちに向かって天使は言いました。

「恐れることはありません。

今、私はこの民全体のためのすばらしい喜び(巨大なメガトン級の喜び)を知らせに来たのです。

今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。

この方こそ主キリストです。」

天使のことば通り、イエスさまは「救い主」として私たちの所に来られたのです。それは、私たちが罪と滅びから救うためです。どのようにしてイエスさまは私たちを救われるのでしょうか。私たちの罪を赦すことによってです。ご自分が私たちの罪の身代わりに十字架で死なれて、イエスさまは私たちの罪を赦してくださるのです。そして、私たちの罪を赦すことによって、私たちに平和をもたらします。それは、「ローマの平和」のようなゲタラメな平和ではありません。神さまに罪を赦していただくという、本物の平和です。神さまに罪を赦していただいたので、もう永遠にさばかれる心配がない、究極の平和です。神さまに罪を赦していただいたならば、私たちが人を赦すことができます。それで、天の軍勢のように、罪赦された心からの喜びを爆発させて、両手を挙げて神さまを讃美することができますのです。天国に喜びが満ちているのは、この罪の赦しがあるからです。罪赦された人々が、喜び溢れて、自分たちの罪を赦してくださった神さまをほめたたえているのです。これこそ、天国に満ちている平和です。そして、イエスさまが地上にある私たちにもたらしてくださった平和なのです。

ここに集われたみなさんにも、この平和が神さまから与えられるようにと祈ります。

天の軍勢は「**地の上に、平和が、みこころにかなう人々にあるように。**」と祈りました。「みこころにかなう人々」とはどのような人々を言うのでしょうか。これはもともと「気に入った人々」という意味の言葉です。それでは、どのような人が神さまの「気に入った人」「みこころにかなった人」でしょうか？それは要するに、この羊飼いのような人です。つまり、この世で何も無い者です。この世に何の希望も無い、この世に失望している者です。心貧しい者です。それで、天使のお告げをそのまま素直に信じる人です。もっと言うと、**神を信じる者**です。キリストを受け入れる者です。今日聞いた天使のお告げの通り、イエスさまがこの私を罪から救うために産まれて下さったと信じる者です。

羊飼いたちは、この天からの啓示を受けた時、少しも疑うことなく、すぐにイエスさまを探しに出かけました。

15. 御使いたちが彼らを離れて天に帰った時、羊飼いたちは互いに話し合った。

「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせて下さったこの出来事を見て来よう。」

16. そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉桶に寝ておられるみどりごとを捜し当てた。

この通り、羊飼いたちは、何のためらいもなく、天使の言う通りに、イエスさまに会いに行きました。「あなたがたのために救い主がお生まれになりました。」という天使の言葉を、「そうですか、わかりました。」とただその通りに「私のために救い主がお生まれになった」と単純に信じたのです。

今日ここに集うみなさんひとりひとりも、この同じ祝福に招かれています。天使は言いました。

「この民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。

あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。」

この天使による天からの啓示が無ければ、イエスさまはただの赤ん坊です。しかも、単なる宿無しのみすぼらしい赤ん坊に過ぎません。でも、羊飼いたちのように、今日聞いた天使による天からの啓示を信じるならば、みなさんも、天の軍勢と同じく、そして、羊飼いと 同じく恵みにあずかることができます。罪を赦していただけます。「喜び」が満ち溢れます。「平和」が来ます。みなさんの人生に「神の国」が到来するのです。

みなさんが天国に入るのに必要なのは、良い行いではありません。お金も学歴も必要ありません。地位も権力も必要ありません。**みなさんが天国に入るのに必要なのは、イエスさまです。**羊飼いのように、イエスさまを「自分の救い主」と信じるならば、みなさんも救われます。イエスさまは罪を赦してくださいます。そして、天国に行けます。天国に行くことのできる希望と喜びが満ち溢れます。

ここに集うみなさんひとりひとりが、羊飼いのように、「みなさんを罪から救うためにお生まれになった」イエスさまを受け入れて、永遠のいのちに与り、羊飼いのように、永遠の平和がみなさんの人生に来るよう、イエス・キリストの御名により祈ります。